

令和6年度

保育所自己評価表

伊丹市立ひかり保育園

保育理念		安全・安心な保育環境のもと「たくましく生きる力・学びに向かう力」を育む		
保育方針		「子どもの主体性が育つ保育」		
保育目標		『安全・安心』『健康な心と体』『豊かな感性』『のびのびと自己を表現する』『伝え合う』『ともに育ち合う』		
重点目標		共主体を意識した環境づくり・保育者の関わり～子どもも保育者も楽しめる保育を目指して～		
項目	重点項目	達成目標・具体的施策	最終評価 (◎○△)	年度末評価
学びの場である保育の充実	「愛情」を基盤とした自己肯定感の構築	・園全体で個別配慮がある子どもの様子を伝えたり、相談し合う場を2カ月に1回程度設け、子どもへの理解を深めていく。 ・週1回、乳児・幼児会議で一人一人の子どもの様子について話し合う。又、クラス会議を週1回行えるよう職員間で連携する。会議の中で子どもの関わりについて話し合った時にはすぐに情報共有し、全職員が愛情豊かに丁寧に関わりができるようにする。	○	・2カ月に1回にじいろ会議を行い、色々な保育者の視点から話し合うことができた。今後は短い時間でも回数を増やしていくことを検討していきたい。 ・幼児はコーナー保育を行うことで子ども自身が意欲的に遊びに取り組み、自信を持って遊ぶ姿が多く見られた。今後も続けていき、他職員も共通認識を図れるようにしていきたい。
	資質・能力を育む保育の推進	・幼児は月に1・2回、読み取りや保育webを用いての話し合いの場を持ち、保育や環境に活かしている。今後も継続していく。 ・乳児は毎日数分ずつでもその日の保育を振り返る時間を持ち、すぐに環境に必要な物を用意したり、関わり方を見直したりと保育に取り入れる。	○	・幼児はコーナーが広がった分、担当が一人というところがほとんどで共有の難しさを感じた。しかし、こどもだよりや写真を使って共有できるよう工夫した。もっと具体的に月何回と決めて写真を使っている語り合いの機会を意識的に持てるようにする。
	ちがいを認め合える仲間づくり	・年4回の取り組みのテーマをもとに子どもの姿をドキュメンテーションにし、心情面や人との関わりや職員の気づきを可視化し、保護者と共有する。 ・職員間で取り組みを通して保育を振り返ったり他クラスの様子を知ったりし、今後の保育に繋げる。	○	・icucoを活用し、保護者に伝えることはできたが、保護者と共有できているか振り返る機会は持てなかった。又、保護者が他クラスのドキュメンテーションを見る機会が持てるよう検討していく。 ・取り組みを通して保育を振り返り、他クラスの様子を知ることができた。今後も保育に活かせるよう継続していく。
	健やかな体の育成	・食べることや旬の食材に興味や関心を持てるよう栽培活動をしたり、給食のメニューや栄養素などの視覚掲示をしたりする。又、月1回ライブキッチンを行う。 ・健康や生活習慣の話を看護師と共に計画し、発達段階や季節に応じて適宜行う。保護者にも掲示や園だよりを通して伝える。 ・体を使って遊ぶ心地良さや楽しさを味わえるように、年齢に応じたりリズム遊びや運動遊びを行ったり、乳児は室内に運動コーナーを常設したりする。	◎	・遊びで調理室から出た野菜の皮を使用することにより、その日の給食のメニューへの期待や食材への興味を持つ姿が見られた。 ・保育者だけでなく看護師からも季節に応じた生活習慣に関する話をすることによって子ども自身が積極的に意識して取り組む姿が見られた。 ・発達に応じて運動して遊べる場を設けることにより、どの年齢の子どもも積極的に体を動かし楽しむことができた。
保育者の資質向上	職員研修・園内研修の充実	・月に1回は職員会議、乳児・幼児会議の中で研修報告の場を持つ。ポイントを押さえて報告するために、報告する人はもう一度、学んだことを振り返りまとめておく。報告を受ける側も先に回覧してある資料を見て聞きたいことを考えておく。 ・ミニ園内研修を年2回以上行い、乳児・幼児がお互いの保育を見た上で、環境だけでなく保育内容や関わりについても違った目線での意見交換ができるようにする。	○	・会議では議題が多く、時間の確保が難しかったが、研修の中で印象に残ったことやみんなに広めたいと思ったことは時間を作らなくても伝えることができた。今後は回覧する時によりわかりやすくするため、写真だけでなく資料もつけるようにしていきたい。 ・ミニ園内研修は目標としていた回数は達成できたが、時期が遅く、保育に返しきれなかったことが反省点である。来年度は年度のはじめに計画を立て、環境構成や保育に活かせるようにする。

	チーム保育の推進	・乳児会議・幼児会議を月2回以上、にじいろ会議を2カ月に1回以上行い、子どもの姿や関わりを共有する。 ・乳児会議や幼児会議の中で保育内容を考える時には担当以外の職員も入り、お互いの保育を一緒に考えたり共有したりする。また、常に周りのクラスを意識しながら保育し、連携を図っていく。	○	・会議を通して子どもの姿を共有し、環境の見直しに取り組んだ。又、子どもの様子からさらに再構成し、よりよい環境を考えるようにした。 ・乳児フロアの改革や幼児の異年齢での関わりを職員間で連携しながら共有できた。
開かれ信頼される園づくり	園情報の発信	・icucoを活用し、幼児は週に1回『こどもだより』、乳幼児共に1・2カ月に1回、個別に子どもの学びの様子を画像を入れて配信する。 ・ホームページを月2回更新し、園での教育保育を可視化する。 ・年4回ドキュメンテーションを使って取り組みの様子を掲示や配信し、人権を大切にしたい保育を知ってもらい、共有する。	○	・目標としていた配信や周知の方法について回数は達成できた。写真配信後の保護者の反応が多い。今後も子どもの遊びの様子のみならず、学びへの繋がりを意識しながら発信できるよう職員間で共通理解し、取り組んでいく。 ・icucoのアンケート機能をもっと活用できるよう準備していきたい。
	小学校との接続	・仲間づくり集会や接続に関する研修会に参加する。又、小学校へ本園の公開保育や園内研修の案内をする。園と小学校の学びがつながるよう工夫する。 ・小学校に行く日（休み時間や授業見学）を設け、小学生と交流したり学校の雰囲気を知り、就学への期待を高める。	○	・職員が仲間づくり集会に参加したことで小学校での人権教育への理解が深まった。 ・小学校見学の回数を増やすことにより、子どもたちの小学校への期待が高まった。また、基本的生活習慣の大切さを保護者向けに配信したり、保育の中でも子どもたちへ働きかけることができた。 ・小学校の先生の保育園での研修や行事などへの参加が難しい。引き続き検討していきたい。
	地域交流 子育て支援	・年3回の人権学習会、解放盆踊り、人権フェスティバルなど地域の研修会や行事に積極的に参加し、交流する。 ・地域の子育て家庭を対象に施設見学、室内開放、園庭開放を随時実施する。 ・保護者対象の保育参観を年3回、クラス懇談会を年1回、個人懇談を年2回実施する。その中で子育ての悩みや不安に丁寧に応え、子どもの育ちを共有する。	○	・地域の研修会や行事には積極的に参加した。人権学習会で学んだことは保護者へ発信し、啓発に繋げた。 ・室内開放や園庭開放は人数が伸び悩んでいる。年度の後半は見学の人も減るので、見学が多い時期から積極的に声を掛けていく。 ・目標としていた参観や懇談会の実施回数は達成できた。その他にも必要な時には個別で面談し、保護者の思いに丁寧に応えるようにした。
	備考	・避難訓練年間計画表を作成し、毎月1回以上、避難訓練を実施する。 ・災害発生時の待機中に必要となる備品や備蓄品を用意し、年1回点検している。 ・毎月1回保育所、こども園、児童発達支援センターの担当者が集まり、リスク担当者会を開催し、各園のリスク事案について共有し再発防止に努めている。 ・リスク担当者会で検討し、作成した各種マニュアルを全園（保育所、こども園、児童発達支援センター）で共通理解し、安全・安心な園生活を送れるよう職員一同努めている。		

学校関係者評価総括（こども園）	
-----------------	--

次年度に向けた重点的な改善点 今後取り組むべき重点的な課題	・会議では継続的に色々な保育者の視点で話し合うことを心掛けた。次年度は回数や子どもの写真を使った語り合いの機会を増やしていけるよう年度のはじめに検討する。 ・取り組みや子どもの遊びの経過など保護者へ発信してきたが、次年度は icuco のアンケート機能を利用し、保護者と共有できているかもっと振り返れるようにしたい。 ・小学校見学の回数が増やせたのはよかった。来年度も継続すると共に、小学校の先生の保育園の研修や行事への参加を検討していきたい。
----------------------------------	--

◎達成 ○おおむね達成 △不十分